

統計教育大学間連携ネットワーク連携校報告 II： 立教大学における「データサイエンス」副専攻構想

立教大学経営学部 山口和範

1. はじめに

立教大学では、文部科学省平成24年度大学間連携共同教育推進事業の「データに基づく課題解決型人材育成に資する統計教育質保証」の成果を具体化するために、全学生を対象とした副専攻制度を導入する。この副専攻は、平成26年度の文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援（グローバル化牽引型）」の採択を受けて実施されるグローバル教養副専攻制度の中で展開される。

立教大学では、2010年3月に設立された社会情報教育研究センター（CSI: Center for Statistics and Information）が、全学生向けの統計や社会調査に関する教育プログラムの提供及び研究支援を行っている。現在、CSIは学部学生向けの5科目のe-learning科目の提供と合わせて学部や研究科における専門科目の統計関連科目の講義の担当を行っている。CSIが立教大学の取組部局として参加している統計教育大学間連携ネットワークでは、統計に関する教育内容の検討や質保証に関する議論がなされてきた。そこでの成果を踏まえる形で、講義科目の拡大や実習科目の設置を進め、データサイエンス副専攻を2017年度を目途とし開始する予定である。

2. データサイエンス副専攻

2013年6月に閣議決定された『日本再興戦略-JAPAN is BACK-』の「4. 世界最高水準のIT社会の実現、⑥産業競争力の源泉となるハイレベルなIT人材の育成・確保」で述べられている“ITやデータを活用して新たなイノベーションを生み出すことのできるハイレベルなIT人材”の育成を目指す。具体的には、データ活用力やIT技術を身につけることで、メジャーとしての専門性をよりグローバルに活用できるための副専攻プログラムを目指す。新たなイノベーションの担い手としての専門性を重視しながら「データ活用力やIT技術を身につける」副専攻を用意する。

具体的な副専攻プログラムは、CSIが提供する科目に加え、各学部等で展開されている統計、社会調査、情報関連科目で構成される。またこの副専攻は、立教大学のグローバル教養副専攻の一環として展開されるため、海外体験が副専攻修了の要件となる。海外での統計関連の科目履修、たとえばICPSRのサマーコースへの参加、さらには、関連内容の海外インターンシップやデータ解析コンペティションへの参加も、その対象となる。現在、CSIでは海外の統計教育プログラムを提供している機関との連携を検討しており、副専攻コースを選択した学生のための短期海外プログラムの構築も進めている。